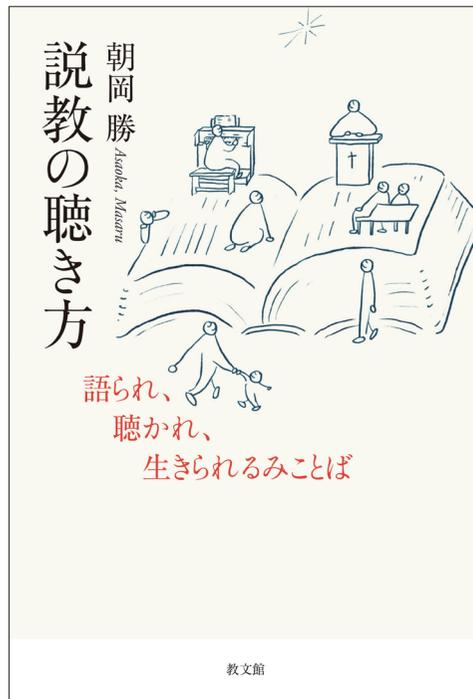




# 説教の聴き方

語られ、聴かれ、生きられるみことば

朝岡 勝❖著



「説教で満たされない……」と悩む**信徒**たちへ

「説教が伝わらない……」と悩む**牧師**たちへ

説教の語り手と聴き手のあいだに、なぜ「ズレ」や「すれ違い」が生まれるのでしょうか？  
どうすれば、お互いの信頼関係を取り戻すことができるのでしょうか？  
牧師と信徒が「説教」をめぐる対話をするための心得を磨く11章。

「私の願いは、このような幸いな説教聴聞の経験を一人でも多くの方が経験して下さることです。そのために、この拙い本が何かのきっかけとなって、教会でみことばの語り手と聴き手がともに学び合うような機会が増えること、そしてみことばの語り手である説教者がますます確信をもって神のみことばを生き生きと語るようになり、みことばの聴き手たちがますますみことばのいのちに養われ、力を得て新しい日々遣わされていき、そのようにして語られたみことばが、聴かれ、生きられるみことばとして力を発揮することが起これば幸いです。」(「あとがき」より)

❖著者紹介 朝岡 勝(あさおか・まさる) 1968年生まれ。東京基督教短期大学、神戸改革派神学校卒業。日本同盟基督教団西大寺キリスト教会、東岡山キリスト教会、徳丸町キリスト教会牧師、東京キリスト教学園理事長・学園長を経て、現在、市原平安教会牧師。著書『教会に生きる喜び』、『大いに喜んで』、『聞き書き 加藤常昭』(共著)、『香港の民主化運動と信教の自由』(共著)、『夜明けを共に待ちながら』(共編著)(以上、教文館)ほか多数。

四六判・並製・216頁・定価1,980円(本体1,800円+税) ISBN978-4-7642-6184-6 C0016